

災救通信

令和4年
2月1日
第25号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

冬季訓練報告

今シーズンの降雪量は、札幌市で11年ぶりの大雪となるなど、日本海側を中心に例年を大きく超え、これから更に増える見込みと報じられている。また、例年降雪量の少ない太平洋側でも大雪となり、特に帯広市では1月観測史上1位となる24時間降雪量が59㎝と記録的なものとなった。更にまた、オホーツク海側の紋別市でも風雪によって、ホワイトアウトが起これたり、えりも岬周辺や道内各地で一時6千200戸が停電となった。

こうした道内各地の様子に対し、支部災救援隊に被害報告などがないか状況確認を行う一方で、例年除排雪を行って冬季訓練を実施している支部隊の様子を報告致したい。

富良野支部隊

富良野支部（坂本雄大隊長）では上富良野町にて1月29日、一般住宅の除排雪の作業を行った。コロナ禍でいつも通りの人数とはならなかったが、上富良野町社会福祉協議会より依頼された、住宅屋根の雪下ろしと住宅窓周りの排雪を、支部隊4名と教区隊からの2名と共に実施した。町の社協とのつながりは、10数年前に町の広報誌で除雪ボランティアを募集していることを知った、佐藤大輔上富良野分教会長が個人で登録



安全面に配慮し上下で声を掛け合い作業を進める。

したこと端を発している。その後、支部災救援隊が冬季間の活動の場としてこの活動を受け継ぎ実施している。

午前8時半、結隊式を行って作業説明などを済ませ、軽トラックや各車両に分かれて第一現場へと移動した。ここは毎年屋根の雪を下ろし、溜まった雪を空き地へとスノーダンプで黙々と運ぶのである。昨年は同じくボランティアで参加してくれていた高校生8名と



吉河社協事務局長（左）と田中社協会長（右）

引率の先生で運び役を受けてくれたが、今年はその手もなく、隊員達は全身から汗を流し、ハアハアと荒れる息づかいで作業を進めたのであった。そうした中、タイミング良く住人である年配のご婦人がアイスクリームや飲み物を差し入れてくれ、隊員にも笑顔が戻る。また、町社協の代表である田中利幸会長と吉河祐樹事務局長が作業の様子を視察され、例年通りに安全に実施していることに感謝され、次の現場へと向かわれた。

宣誓

我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。



坂本富良野支部隊長（左）

こうして屋根の雪下ろしも無事に終え、11時からの予定で次の依頼を受けている住宅へと移動した。ここは屋根から落ちた窓周りに溜まった雪を、スコップやスノーダンプを使用して庭先へと排雪する単純作業であったが、皆同様に顔を赤らめ息が上がって、充実した訓練となった。坂本隊長は「こうした活動は支部活性の原動力であり、地域貢献の大切な御用の場であると考えている。従来は前日にみんなで泊まり語り合う大切なコミュニケーションの場でもあり、当日は体を動かし人たすけに勇ませてもらえる時間と思う。次世代にも声がけして仲間を増やして行きたい」と語ってくれた。その後、教区隊は先を急ぎ現場でわかれ、応援参加を終え、支部隊も解散となった。

空知支部隊

空知支部隊（高坂正道隊長）では今シーズン地区や実施日を複数回に分けて除排雪を実施している。1月18日、隊員3名で支部内教会に於いて神殿以外の屋根の雪下ろしを行った。この教会では少年会員が主に正月頃に除雪を行い、これを受けて教信者の方々が続いて除排雪を行うのが恒例と



高所作業車を使用して安全に雪下ろし。

なっているが、コロナ禍ということも隊員達が応援に入った。

1月21日、月形や美唄の教会に於いてもコロナ禍や例年通りの降雪状況の違いから、屋根の雪が塊となっていたため、高所作業車を使用して雪下ろしを実施させていた。支部隊からは隊長、副隊長の他3名でつとめさせて頂いた。経費はかかったがやはり安全優先で実施出来たことは何よりと思う。

また、1月26日、30日と同じく月形町、芦別市に於いても屋根の雪下ろしを実施させていただいた。この他に、支部管内の市町村で、社協のボランティアに随時参加をし、特に美唄地区では、毎年、社協からの要請で随時、少人数ではあるが

（報告 高坂正道）

天龍支部隊

1月19日10時～14時天龍支部隊（佐藤靖幸隊長）では臨時訓練として支部内教会神殿の屋根の雪下ろしを実施した。参加隊員は5名であったが、何よりも無事に作業出来たこと、ありがたいことである。引き続き、地域ひのきしん活動を実施して行きたい。



慎重に雪を下ろす天龍支部隊員。

その他

南空知支部隊は状況を鑑み止むなく中止と致します。

小樽支部隊は2月19日に社会福祉協議会からの要請箇所を実施予定。

訓練実施支部は庶務まで一報を。